特集 第5回世界水産学会議-2

WFC メモリアルブックとプロシーディングスの編集後記

塚本 勝巳,^{1*} 河村 知彦,¹ 竹内 俊郎²

¹東京大学海洋研究所, ²東京海洋大学海洋科学部

Reflections on the process and publication of the WFC memorial book and the proceedings

KATSUMI TSUKAMOTO,^{1*} TOMOHIKO KAWAMURA¹ AND TOSHIO TAKEUCHI²

¹Ocean Research Institute, The University of Tokyo, Nakano, Tokyo 164-8639, ²Tokyo University of Marine Science and Technology, Minato, Tokyo 108-8477, Japan

プロシーディングス編集委員会はその名の通り、当初プロシーディングスを編集、発行することをミッションに発足したが、その後、会議の開催を記念するメモリアルブックも出版することが決まり、こちらがむしろ大きな仕事となった。

メモリアルブックのタイトルは「Fisheries for Global Welfare and Environment」と決まり、会議全体の基調講演者7名と各セッションの招待講演者から選ばれた方々に執筆をお願いすることとなった(図1)。本書の編集は、編集委員会の2名(塚本、河村)と実行委員会副委員長の竹内、および米国と英国の水産学会からそれぞれ T. D. Beard Jr. 博士と M. J. Kaiser 博士を加えた計5名で行われた。著者の方々は、それぞれの研究分野を代表する世界的権威の方ばかりであったが、さらに各分野で世界をリードする内外の研究者に査読をお願いし、著者とのやり取りを経て、内容の充実を図った。会議の開催日当日に出版することを目標としたため、執筆や編集にかかる時間が限られ、執筆者にも査読者にも、また、本書を出版して頂いた出版社の TERAPUB (㈲ テラパブ) の寺島さんにも多くの無理なお願いをした。この本を、予定通り会議の開催日に出版することができたのは、ひとえにこれらの方々協力によるものである。この場を借りて厚く御礼申し上げる。

WFC メモリアルブックは、まず会議全体の趣旨に基づいて世界中から選ばれた Plenary Lectures の講演者による漁業、保全、脂質栄養、ゲノミクス、沿岸環境などに関する7編の論文から始まる。そのあと、9つのセッション(1. Fisheries and Fish Biology; 2. Aquaculture; 3. Biotechnology; 4. Post Harvest Science and Technology; 5. Ecosystems-Linking Climate Change and Fisheries; 6. Freshwater, Coastal and Marine Environments; 7. Biodiversity and Management; 8. Economics and Social Science; 9. Education and International

Cooperation)が続く。これらセッションの基調講演者が書いた26編の論文が美しいカラー図版とともに収録され、合わせて計33編の論文が一冊にまとめられている。本書は、それぞれの専門分野の最新の科学的知見を簡潔にとりまとめたレビュー集であると同時に、近年多様に細分化している現代水産学を広く俯瞰できる総合書となっている。本書のもうひとつの特徴は、水産学が世界と人類のためにできること、成すべきことについて、各著者がそれぞれの研究分野の視点から提言を試みたものであり、これは本書の独創的な点である。本書の表紙には、喜多川歌麿の美人画の団扇部分をクローズアップした図があしらわれている(図1)。のんびりと帆掛け船が浮かぶ、昔の江戸湾のイメージが伝わって来る風景で、人と漁業と環境の関わりをテーマとした本会議の横浜開催を記念するのに相応しい。本全体は、上質紙を使った総頁470の、もちおもりのする上製本に仕上がっている。水産研究者や水産学を志す学生諸氏だけでなく、行政担当者やサイエンスライターなど広く一般の方

図1 WFC メモリアルブックの表紙

図2 プロシーディングスのCD-ROM

々にも勧めたい一冊となっている。

一方、プロシーディングスは、会議終了後の2009年2月にCD-ROMとして出版された(図2)。こちらは、メモリアルブックとは異なり、会議で研究発表されたすべての方々から投稿を受け付けた。こちらも会議の開催以前に原稿を集めるという急がしいスケジュールにもかかわらず、多くの方に投稿して頂き、561編の論文を収録することができた。全ての著者と出版社TER-RAPUBの金井さんにお礼申し上げる。多くの方々の暖かい協力を得て、なんとか大役を果たすことが出来た。出来上がったメモリアルブックとプロシーディングスを前に、編集者一同、ほっとしている。